明日香村の文化財 ①

キトラ古墳

Kitora Tumulus

Copyright©Asuka・TRIC・NHK,1998

1998年 10月
明日香村教育委員会

キトラ古墳

明日香村大字阿部山小字ウエヤマ136-1

1.はじめに

キトラ古墳は、明日香村の南西、高取町と隣接する阿部山に築かれた円墳である。昭和58年（1983）年のファイバースコープによる内部調査で石槨奥壁に玄武像が確認され、一躍名前が知られるようになった。それから15年の歳月が流れ、近年の自然災害や地殻変動による壁画への影響が危惧されていた。そこで今回、1997年９月から1998年３月にかけて範囲確認調査と内部調査を実施した。

2.調査成果

【範囲確認調査】

調査の結果、墳丘は直径約14m、高さ約３mの二段築成の円墳であることが判明した。上段は、直径9.4m、高さ2.4m、下段は直径約14m、高さ60～90cmである。

墳丘は、北東から伸びる丘陵の南側斜面を幅約20m、高さ３～４mにわたって削り出し、岩盤に幅・深さ共約40cmのＵ字形の溝を設け、その中に河原石を充填させ暗渠としている。その後、一帯を整地し、版築によって墳丘を築く。その際、厚さ４～５cmの板を立て、径約10cmの杭で固定し、その内外を厚さ２～３cmの版築で積み上げている。上段裾より若干内側には板状痕跡があり、これをもとに上段の計画寸法を復元すると直径8.8m（約30尺）となる。これは古墳が厳密な設計に基づいて築かれたことを示している。

【内部調査】

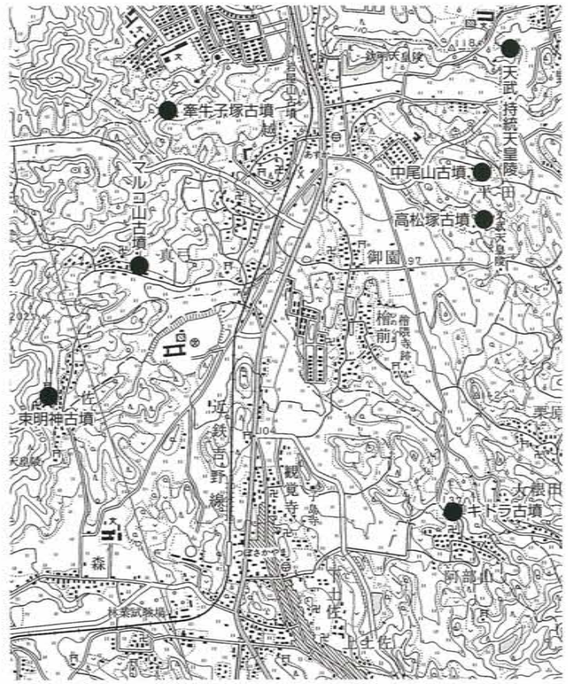
内部調査は、直径38mmの観測孔を盗掘孔に向け、手動によりドリル掘削を行い、そこにガイドパイプを通して、小型カメラ（細型多関節マニュピレーター映像システム）で観察した。

内部構造は、横口式石槨で天井は家形をしている。このような構造は、マルコ山古墳（明日香村）や石のカラト古墳（奈良市）にもみられる。壁面には漆喰が塗られ、四神が描かれている。北壁には亀に蛇が絡まった玄武があり、東壁では青龍上顎と舌先がわずかに確認できる。西壁の白虎は、顔の向きが高松塚古墳とは異なり、北を向いている。また、天井には三重の同心円（内規・赤道・外規）と黄道が描かれ、その内側に星座が表現されている。天井斜面の部分には西に月像、東に日像を配している。この天文図は、中国蘇州にある南宋時代（13世紀）の淳祐天文図より約500年程古く、現存するものでは東アジア最古の天文図である。

3.まとめ

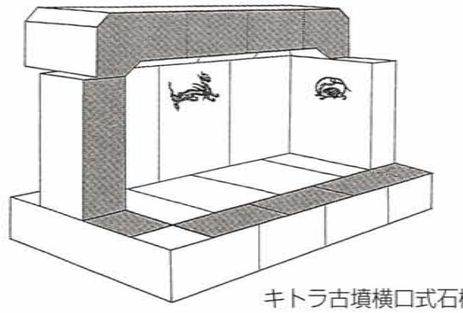
今回の調査では、キトラ古墳の周辺地形の状況や墳丘の築造工程・内部構造など多岐にわたる成果を得ることができた。今後、これらの成果は飛鳥の終末期古墳を考える上で重要な資料となる。現在これらのデータをもとに考古学や美術史・天文学・保存科学等の分野で分析が進められていると共に、キトラ古墳の保存方法・活用について検討が行われている。

調査前



キトラ古墳位置図

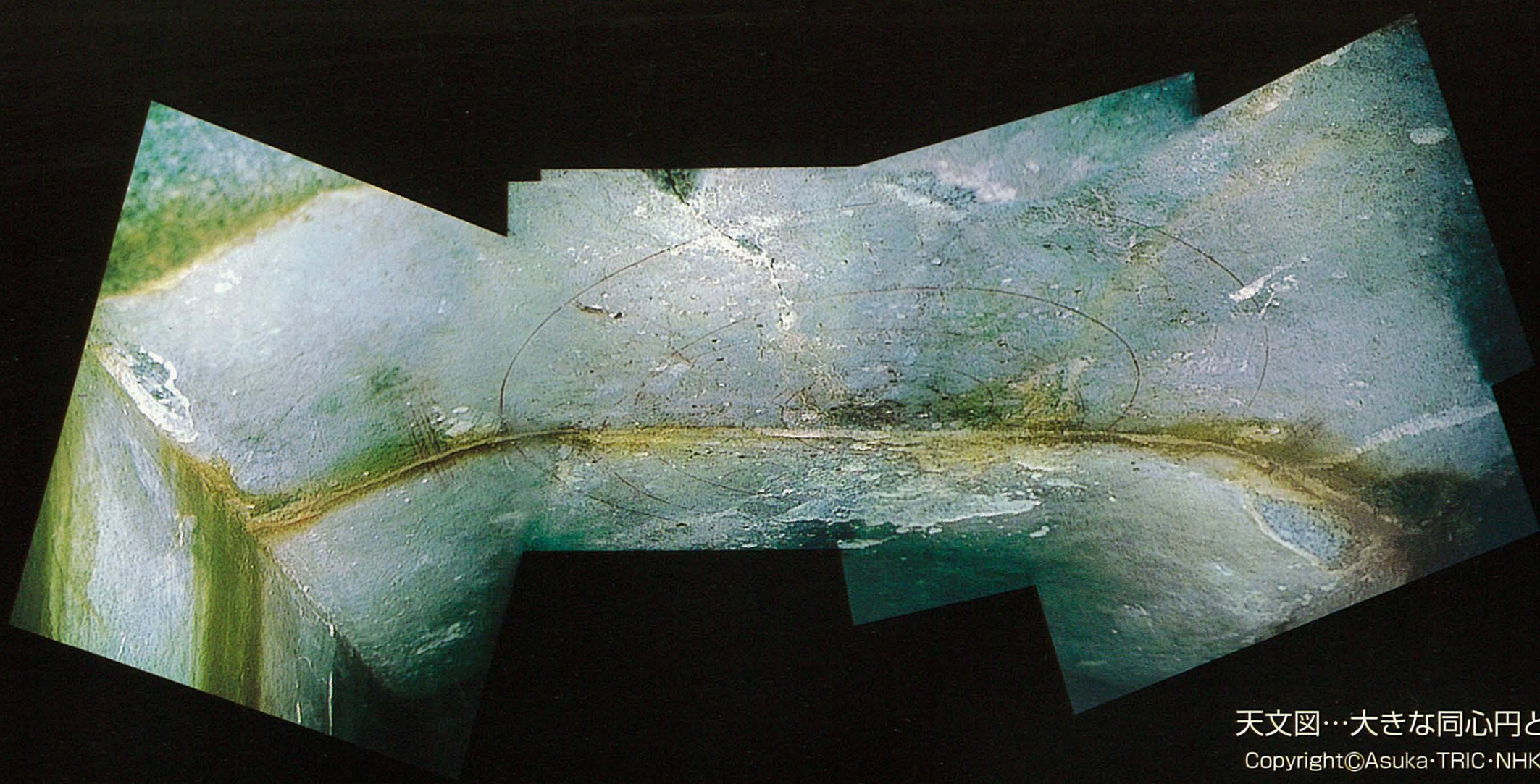
板状痕跡と杭跡



キトラ古墳横口式石槨（模式図）

東地区

西地区



天文図…大きな同心円と星座
Copyright©Asuka・TRIC・NHK,1998

天文図…画像処理によって真下からの写真に
Copyright©Asuka・TRIC・NHK,1998

玄武…15年前同様に北壁にくっきりと
Copyright©Asuka・TRIC・NHK,1998

白虎…頭を北へ向け、高松塚とは異なる
Copyright©Asuka・TRIC・NHK,1998